

帝国日本の気象観測ネットワーク V 南洋庁

山本 晴彦 著, 農林統計出版 発行

2017年12月, 262 pp. 3,000円 (本体)

著者はこれまで『帝国日本の気象観測ネットワーク』というタイトルの元に、4冊の著書を刊行している。I 満州・関東州, II 陸軍気象部, III 水路部・海軍気象部, および IV 樺太庁である。本書は、それらに続く5番目の分冊で、南洋庁所管の気象業務に関する資料を取りまとめたものである。これまでと同様、当該業務の歴史的背景・沿革、業務体制、それに観測資料の書誌情報をその主な内容とする。

本書が対象とする「南洋群島」は、日本が第1次大戦後から第2次大戦まで、国際連盟の委任を受けて統治していた赤道以北の旧独領南洋群島(マリアナ諸島・マーシャル諸島・カロリン諸島等のミクロネシアの島々)を指す(図序-1参照)。第2次大戦後は、国連の信託統治としてアメリカ合衆国が統治し、その間、北マリアナ連邦、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、パラオ共和国がそれぞれ独立した。ただし、気象業務は引き続きアメリカ合衆国のNOAAが担っている(増田, 2018)。本書の概要を目次として示すと下記の通りである。なお、各章末には延べ100点を越す資料、文献が付されている。

まえがき

序章 課題と方法

第1章 ドイツにおける南洋群島の気象観測

1. 南洋諸島の情勢
2. ドイツにおける太平洋諸島の気象観測

第2章 南洋庁観測所の創設と拡充

1. 南洋庁観測所の創設と展開
2. 企画院気象協議会による南洋庁観測所の拡充
3. 南洋庁気象台の職員(南洋庁職員録(昭和18年10月1日現在))
4. 第四気象隊(昭和19年5月現在(推定))

第3章 南洋庁観測所および出張所の観測業務

1. 南洋庁観測所の庁舎
2. 南洋庁気象台における測候所と管内観測所の展開
3. 南洋庁観測所の観測業務
4. 出張所
5. 分室
6. 管内観測所
7. ヤップマニラ気象観測所

第4章 南洋庁観測所の気象資料

1. 気象月報
2. 気象年報
3. 気象累年報

4. 熱帯気候表
5. 特別報告・調査報告
6. 潮汐観測
7. 南洋庁観測所
8. 天気図
9. 気象原簿類
10. 南洋庁公報
11. その他の資料

終章

1. 南洋庁観測所職員の動向
2. 記録文集『あおぞら』に掲載された旧南洋庁気象台職員の回想録
3. 南洋庁観測所(気象台)の沿革
4. ダグラス・マッカーサーの報告書

『THE CAMPAIGNS OF MACARTHUR IN THE PACIFIC, VOLUME I』

おわりに

索引

本書の第1章では、ドイツ領時代の気象観測体制、観測要素・期間、それに現況等が紹介されている。第2章と第3章では、日本の南洋庁観測所を中心とする観測業務の変遷が述べられている。1923年2月に始まった南洋庁観測所による気象観測網が、比較的短期間に、広大な管轄区域に展開されていったことが分かる。また、原資料や観測所、出張所等の建物、それに測器の写真などが多数掲載されており、観測所第2代所長であった川崎英男の記録と相まって、過酷な環境下にもかかわらず、次々と本格的な観測業務を軌道に乗せていった関係者の労苦が偲ばれる。さらに、終章と合わせ読むことにより、激化する戦火のもとで、観測員が誠実に職務を全うしようとした状況が臨場感をもって伝わってくる。第4章では、南洋庁が発行した気象資料を11のカテゴリーに分類し(目次参照)、それぞれの書誌情報を詳細に紹介している。そして、最後の終章では、南洋庁観測所の沿革が、著者自ら編集した詳細な年表に基づいて記載されており、職員の動向、回想録の抜粋と相まって、今はなき観測所とその関係者へのレクイエムともなっている。

本シリーズで、その実態が明らかとなってきた海外の貴重な観測資料を活かすには、データのデジタルアーカイブ化が必要である。著者は、本シリーズの執筆と並行して、それにも取り組み、2016年度には、満州・関東州、樺太、朝鮮を対象とした「北東アジア気象データベース」を構築している。しかし、このような事業を研究者個人や研究者グループに委ねるのは酷である。我が国でも、ドイ

ツ気象台が実施しているプロジェクト“KLIDADEGI”（第1章参照）のような、組織的な取り組みが望まれる。著者は、本シリーズとして、あと2冊の刊行を予定しているという。このような、地味で労多い仕事に鋭意取り組まれている著者に敬意を表するとともに、続編の円滑な刊行を祈念する。なお、増田耕一（海洋研究開発機構）のブログ（yuku kawa, <http://macroscope.world.coocan.jp/yukukawa/>）には、本書だけでなく既刊の4冊を含む、本シリーズ『帝国日本の気象観測ネットワーク』に関する丁寧な読書メモ（膨大な読書メモの一部）がある。

引用文献

増田耕一, 2018: 山本晴彦 (2017) 帝国日本の気象観測ネットワーク V 南洋庁.

<http://macroscope.world.coocan.jp/yukukawa/?p=7685> (アクセス 2018年6月1日)

(環境資源研究所 高見晋一)